

別紙5

現存率（現在、保有する性能）調査票

現存率①×100		%		種類		各部現存率		再建設指数 P×N	再建設指数調整値 R=P×N/0.4	現存指数 K×R	現存率 Σ(K×R)/Σ(R)
区分	構成	P	N	内容	K	率					
構造		140	鉄骨・鉄筋コンクリート	1.5							
			鉄筋コンクリート	1.0							
			ブロック造	0.7							
			鉄骨造	0.9							
			れんが造、石造	1.2							
主要部の仕上	屋根	10	・アスファルト防水、コンクリート押えモルタル塗	1.7							
			・アスファルト露出防水	1.0							
			・モルタル防水	0.5							
			・石綿スレート、かわら、銅板	0.4							
	外壁	25	・タイル（小口）	1.4							
			・モザイクタイル	1.0							
			・コンクリート打放し	1.0							
	内壁	20	・モルタル	1.0							
			・プラスター	0.8							
	天井	20	・木製	0.7							
・吸音テックス			1.1								
床	20	・ボード	1.0								
		・プラスター	0.8								
外部建具	35	・木製	0.7								
		・リノリウム	1.3								
		・プラスチックタイル	1.1								
		・アスファルトタイル（暗）	1.0								
内部建具	10	・モルタル	0.8								
		・木製	0.7								
		・アルミサッシ（オーダー）	1.2								
小計				1.0							
設備	電灯設備等	20	・アルミサッシ（既成）	1.0							
			・スチールサッシ	0.9							
			・木製	0.7							
	電線類その他	15	・蛍光灯（300Lx程度以上）	1.0							
			・蛍光灯（300Lx程度以下）	0.8							
給排水その他	20	・白熱灯	0.4								
		・ビニール被覆線	1.0								
暖房	40	・ゴム被覆線	0.9								
		・水洗便所	1.0								
		・くみ取便所	0.4								
小計				1.9							
小計				1.3							
小計				1.0							
小計				1.0							
外力条件		25	別表による係数								
合計											

調査責任者 職・氏名

印

各部現存率 (K)

各部現存率 K の値	(構造) 内容			
	1 損耗なし、又は損耗の程度僅少	1.0	0.9	
	2 中小亀裂、鋼材発錆（鉄骨造）、外力による小変形がみられるが耐力上影響が殆んどないもの	0.9	0.8	0.7
	3 損耗が進み、部分的補修、補強又は取替えを必要とするもの	0.7	0.6	0.5
	4 不同枕下による大亀裂、建物の傾斜、鉄筋被覆材の広範囲の脱落、発錆による主鋼材の断面欠損、その他により構造上大補強を必要とするもの	0.5	0.4	0.3
	5 構造上損耗著しく建替えを必要とするもの	0.3	0.2	0.1
	(仕上、設備) 内容			
	1 損耗なし、又は損耗の程度僅少	1.0	0.9	
	2 汚染及び損耗はある程度みられるが、機能上問題のないもの、又は極く小規模の補修を必要とするもの	0.9	0.8	0.7
	3 損耗が進み、部分的補修を必要とするもの	0.7	0.6	0.5
4 相当部分で損耗が進み、機能低下が顕著であるが、部分補修が可能なもの	0.5	0.4	0.3	
5 損耗の程度著しく全面建替えを要するもの	0.3	0.2	0.1	

外力条件 (N)

a 海岸からの距離	b 積雪	c 地盤																																	
① 海岸からの距離が8 kmをこえる	① 毎年少ない(0~20 cm未満)	① 普通																																	
② 海岸から4 kmをこえる8 km以内	② 毎年かなりつもる(20~100 cm未満)	② やや軟弱																																	
③ 海岸から4 km以内	③ 毎年ひどくつもる(100 cm以上)	③ 軟弱																																	
※率(外力条件分類番号 a b c) 下記(付表)により																																			
(付表)	<table border="1"> <tr> <td>率</td> <td>1.00</td> <td>0.98</td> <td>0.96</td> <td>0.94</td> <td>0.92</td> <td>0.90</td> <td>0.88</td> <td>0.86</td> <td>0.84</td> <td>0.82</td> <td>0.80</td> </tr> <tr> <td>外力条件 分類番号</td> <td>①①①</td> <td>②①①</td> <td>①①② ①②① ③①①</td> <td>②①② ②②①</td> <td>①①③ ①②② ①③① ③①② ③②①</td> <td>②①③ ②②② ②③①</td> <td>①②③ ①③② ③①③ ③②② ③③①</td> <td>②②③ ②③②</td> <td>①③③ ③②③ ③③②</td> <td>②③③</td> <td>③③③</td> </tr> </table>											率	1.00	0.98	0.96	0.94	0.92	0.90	0.88	0.86	0.84	0.82	0.80	外力条件 分類番号	①①①	②①①	①①② ①②① ③①①	②①② ②②①	①①③ ①②② ①③① ③①② ③②①	②①③ ②②② ②③①	①②③ ①③② ③①③ ③②② ③③①	②②③ ②③②	①③③ ③②③ ③③②	②③③	③③③
率	1.00	0.98	0.96	0.94	0.92	0.90	0.88	0.86	0.84	0.82	0.80																								
外力条件 分類番号	①①①	②①①	①①② ①②① ③①①	②①② ②②①	①①③ ①②② ①③① ③①② ③②①	②①③ ②②② ②③①	①②③ ①③② ③①③ ③②② ③③①	②②③ ②③②	①③③ ③②③ ③③②	②③③	③③③																								

現存率に基づく評点、老朽度

現存率	評点	老朽度	定義
50%以下	100点以上	特A	特に緊急を要する
60 "	90 "	A	緊急を要する
70 "	80 "	B	至急実施すべきである
—	70 "	C	できるだけ早く実施した方がよい
—	60 "	D	必要は認めるが急がなくてよい
—	50 "	E	必要ない

- (注) 1 この調査は、取壊し(改築)を行う際の既存施設の老朽度を調査するために行う。  
 2 調査票記入要領  
 ア 調査票の各区分ごとの種類欄(N)は、該当するか所に○印を付すること。  
 イ 各部現存率欄(K)は、下表各部現存率Kの値の内容のうち、該当する項目を選定し、老朽度に応じた係数を選択すること(老朽度が大きいものほど係数は小さい。)。また、老朽の具体的な現況を記入すること。  
 ウ 外力条件は、a 海岸からの距離、b 積雪、c 地盤の各内容ごとに1つを選択し、その組み合わせに応じた係数を種類欄(N)及び各部現存率欄(K)に記入すること。  
 エ 各区分ごと及び合計について、再建設指数(P×N)、再建設指数調整値(R=P×N%/0.4)及び現存指数(R×K)を算定すること。  
 オ 各区分ごとの現存指数の合計(Σ(R×K))を再建設指数調整値の合計(R)で除して現存率を算定すること。  
 3 調査に当たっては、一級建築士若しくはこれと同等の資格を有する者がこれに当たること。  
 4 調査に当たっては、調査対象施設を実地に調査し、これに当たること。